

## 評価項目及び評価基準

### 1 評価点数

技術審査点及び価格審査点の合計点を、評価点数とする。なお、技術審査点は750点とし、価格審査点は250点とする。

技術審査点 (750点満点(150点満点/人×5人))	+	価格審査点 (250点満点(50点満点/人×5人))	=	評価点数 (1,000点満点(200点満点/人×5人))
--------------------------------	---	-------------------------------	---	---------------------------------

### 2 技術審査点及び価格審査点の点数化の方法

#### (1) 技術審査点の点数化の方法

審査委員1人当たりの技術審査点の配点は、150点とする。表1に示す各評価項目ごとに、表2で示す採点基準により評価し、算出した得点の合計を技術審査点とする。

①各評価項目の得点=表1の各項目の配点×表2の採点基準による配分率

※小数点第2位まで求める(小数点第3位以下は切り捨てる。)

②技術審査点=①で算出した各項目の合計

※小数点第2位まで求める(小数点第3位以下は切り捨てる。)

#### ア 評価項目及び配点

評価項目及び配点は、表1のとおりとする。

表1 評価項目及び配点

評価項目		評価基準	配点 (各項目)	配点 (項目計)
企画調整及び運営に向けた調整業務	事業目的への理解と企画力	・事業目的を理解した企画となっているか。 ・事業目的を達成しうる企画力はあるか(話題性、訴求力、新たな概念や価値観に基づく取組など。)	15	30
	実施・運営体制	・類似業務(H29年度以降)の実績を有しているか。 ・本業務を確実に円滑に遂行できる運営体制が確保されているか。 ・事業実施に必要な実行力(実績やノウハウ等)はあるか。	15	
プログラムの企画及び実施	提案内容	・NiQLLの特性をいかせる内容となっているか。 ・当市の魅力を広く市内外に伝えられる内容となっているか(当市に縁のある演者の起用ほか) ・NiQLLの顧客イメージとの親和性があるか。 ・目玉イベントについて、施設コンセプトや出店者のPR等を訴求できる内容となっているか。	30	50
	実現性	・提案内容は、実現可能で具体性があるか。 ・提案内容は、事業費全体の規模からみて妥当か。	20	
会場及び会場外運営業務	安全管理	・安全対策や連絡体制、事故や怪我への対策等が確保されているか。	20	40
	混雑対策	・警備員の配置などにより駐車場を含む来場者の混雑対策が確保されているか。	20	
広報に関する業務		・広く市内外に発信するのに相応しいコンセプトになっているか。 ・集客効果を高めるようなインパクトはあるか。 ・計画は実現可能で効果が期待できる内容となっているか。	25	25
アンケートの実施及び集計		・高い回収率が期待できる内容となっているか。	5	5
合計			150	150

※いずれかの審査委員の評価点数が80点未満の場合には、優先交渉者として選定しない場合がある。

※審査委員の評価点数がいずれも80点以上であっても、審査委員の評価点数の合計が600点未満の場合は、優先交渉者として選定しない。

#### イ 評価項目の採点基準

表1の各評価項目について表2に示す5段階により算出する。

表2 採点基準

評価	評価内容	点数の算出方法(配分率)
A	特に優れている	配点 × 100%
B	優れている	配点 × 75%
C	普通	配点 × 50%
D	やや劣る	配点 × 25%
E	劣る	配点 × 0%

#### (2) 価格審査点の点数化の方法

審査委員1人当たりの価格審査点の配点は50点とし、参加者の提案価格を比較して、点数化する。

なお、価格審査における価格審査点は、次式によって算出する。

価格審査点= (最低見積価格/提案価格) × 50点 × 5人

※小数点第2位まで求める(小数点第3位以下は切り捨てる。)

※負の数となった場合は、0点とみなす。

### 3 同点の場合

審査の結果、最も得点が高い者が複数あるときは、審査委員の多数決により優先交渉者を選定する。

可否同数の場合は、審査委員長の決するところによる。